



南筑後外国語教育研究サークル

会長 柳川市立三橋中学校 校長 境 宏文

11月8日(土) 13:30~16:30

筑後市勤労者家庭支援施設(サンコア)にて

9月、10月は九英研での実践発表の準備があったため、久しぶりの定例学習会。お忙しい中、15名の先生方に参加していただき、「授業作りの基礎・基本に立ち戻ろう!」のテーマのもと、4技能を磨く授業づくりについて様々な意見を交流することができました。また、10月24~25日に熊本で開催された九州英語教育熊本大会の分科会で発表していただいた内容を、今村先生(三橋中)より報告していただき、Can-do リストをもとに考えた授業づくりの大切さを改めて考えることもできました。新任、講師の若い先生方も参加していただきましたが、ご自身の授業改善に向けて、何らかのヒントを得て帰られたようです。今後も、この基礎・基本の授業づくりを再度見直しながら、互いのティーチングスキルを向上させていきましょう。授業づくりのお悩みを相談できる機会でもあります、今後もたくさんの先生方の参加をお待ちしています。

文責 古川(南筑後教育事務所)

九英研(熊本大会)の報告

今村隆徳先生(柳川市立三橋中)

九州英語教育熊本県大会 10月24日(金)~25日(土)

司会: 今村隆徳(柳川市立三橋中)

報告: 小田啓子(広川町立広川中)、黒木みぎわ(大牟田市立延命中)

約60名ほどの参加に、南筑後英語教育サークルの取組、Can-do リストおよびその達成のための小項目、4技能を統合させる授業づくり(受信→発信)などについて報告していただきました。目標(ゴール)を明確にした授業づくりの大切さについて、また、読んだり、聴いたりしたことを自己表現につなげることの意義、その手だての工夫について多くの先生方と共通理解することができたとのこと。この大牟田、柳川、筑後、八女の地域を知っていただくとともに、そこで生徒の英語力向上を目指し取り組んでいる私達の活動を伝えていただきました。



「授業づくりの基礎・基本に立ち戻ろう① 1時間の授業の基本的な流れ」

古川志乃(南筑後教育事務所)

模擬授業形式で、参加者の先生方に生徒役を体験してもらいながら、講義および協議(互いのアイデアを交流)を行いました。

- 1 英語力を身に付けるためには……教師と生徒のコミュニケーションを積極的に英語で行わずして、コミュニケーション能力は身につかない Talk with students in English!! 授業中、4技能をできるだけフルに!
- 2 生徒が思考する時とは……既習内容と新出内容を比較して「ズレ」に気付く よりよいものと比較して「ズレ」を感じる 生徒自らが「あれ?」「どういうこと?」と思考するためには、的確なタイミングでの発問が必要
- 3 「めあて」と「まとめ」のある……「めあて」とは主眼(教師レベル)に対して、生徒が1時間の授業の目標とするもの。生徒が学びたい! 頑張ろう! と関心・意欲が高められる導入、「めあて」の提示、そして、終末には、自分が何を学び、頑張ったのか、自分自身を見取る「まとめ」=ふりかえりが必要。そのためにも、教師は1時間で生徒にどんな力をつけさせたいのか評価規準を具体的にもつことが大切。

参加者の感想

文法法則を生徒自身が既習知識や経験をもとに見つけ出すなど、生徒が思考する機会を設けることの大切さを学びました。生徒が思考することで定着度も上がるし、教師主導の授業に陥ることなく生徒が主体的にのぞむ授業が展開できると感じました。また、生徒も教師も授業の中でいかに使うか…教師が英語で話すことによりリスニング力を高めるうえ、説明のし過ぎを防ぎ、結果として生徒の発話量、練習量の増加につながるということがわかりました。主眼達成した生徒の姿を明らかにしたうえで、たっぷり英語漬けにしながら、生徒自身が自分の変容を実感できるような授業づくりを目指していきたいと思えます。



参加者の感想

大切にしたいのは、単元および1時間の授業の「導入」です。生徒のモチベーションをあげられるようにしたい。参考になったのは、リーディング指導。読めるスピードと聞き取れるスピードの関連について、今村先生が話されたことは自分の中でストンと納得できました。やはり、このような学習会で先生方と交流することが大切だとしみじみ感じました。